

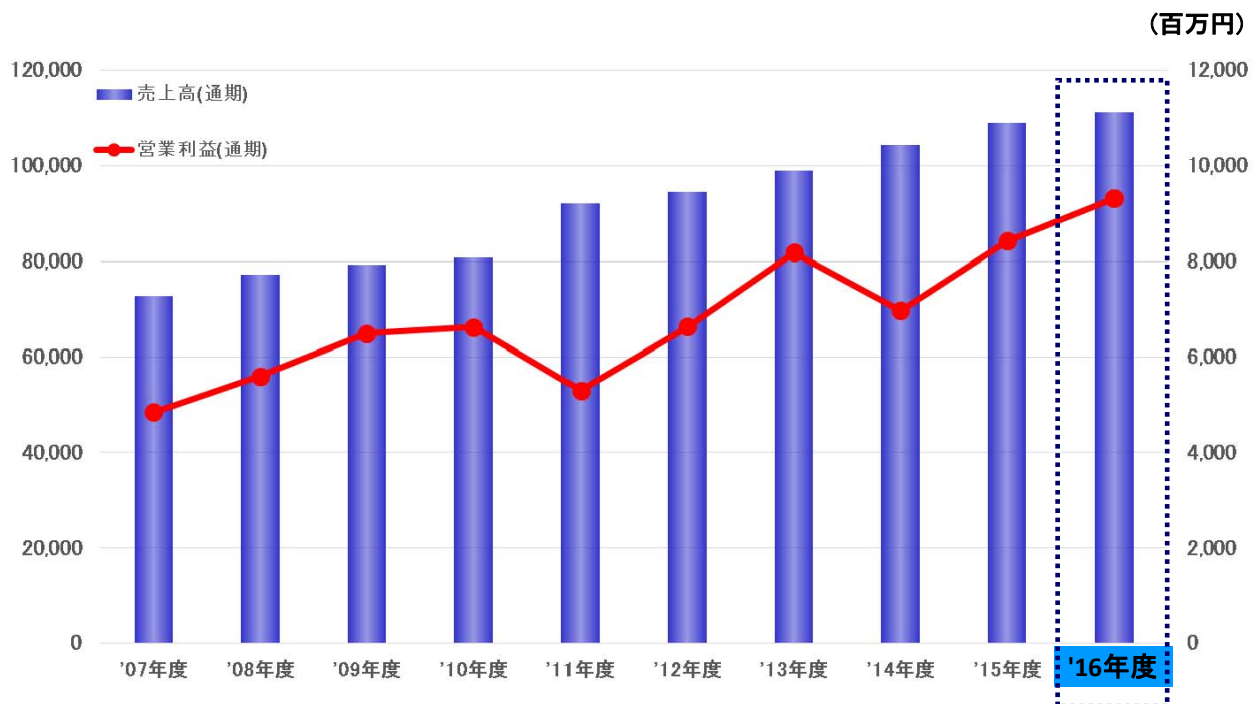
# 株式会社ビー・エム・エル

## 2016年度決算説明会

2017年5月12日  
代表取締役社長  
近藤 健介

## 10年間 業績推移

【売上高・営業利益ともに過去最高を更新】



## 前年度比較表

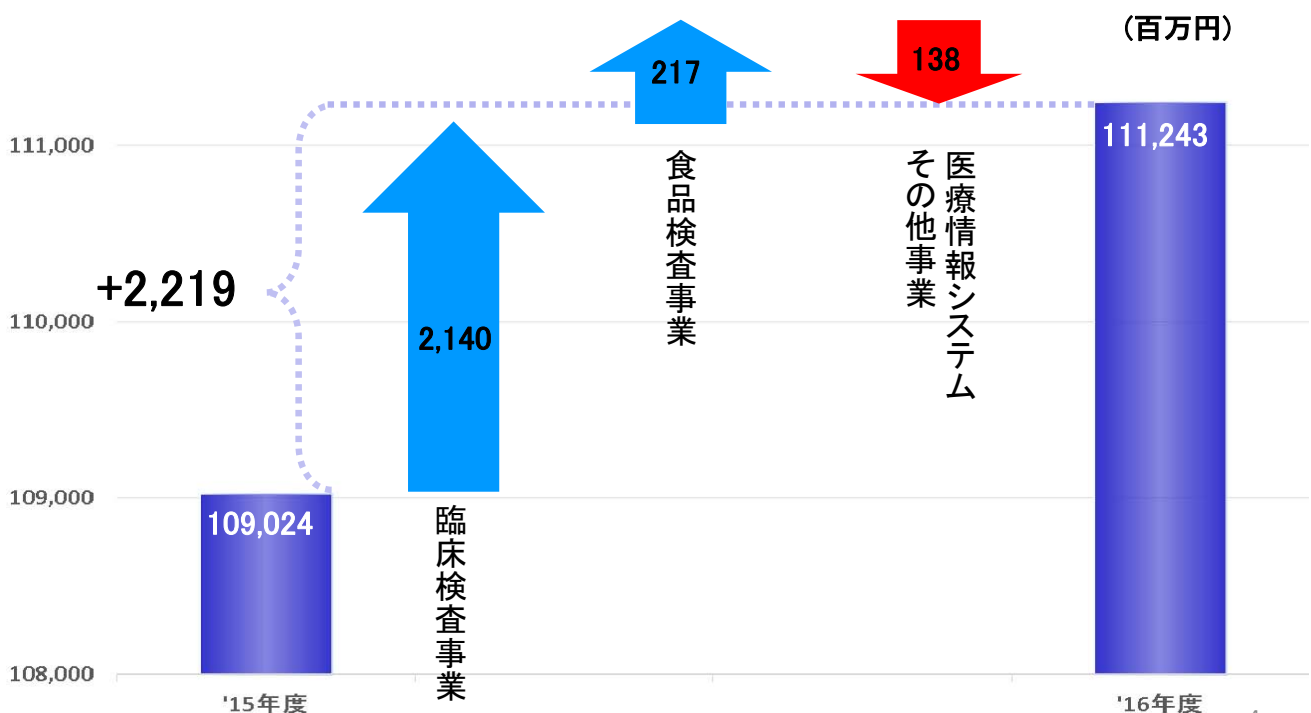
(百万円)

	2015年度	2016年度	増減額	増減率	修正計画	計画差
売上高	109,024	111,243	2,219	2.0%	111,500	-257
検査事業	103,571	105,929	2,357	2.3%	-	-
臨床検査	99,394	101,534	2,140	2.2%	-	-
その他検査	4,177	4,394	217	5.2%	-	-
医療情報システム	3,949	3,883	-66	-1.7%	-	-
その他事業	1,503	1,430	-72	-4.8%	-	-
営業利益	8,429	9,329	899	10.7%	9,480	-151
経常利益	8,830	9,711	881	10.0%	9,890	-179
親会社株主に帰属 する当期純利益	5,424	5,948	524	9.7%	6,110	-162

3

## 事業別売上増減の内訳

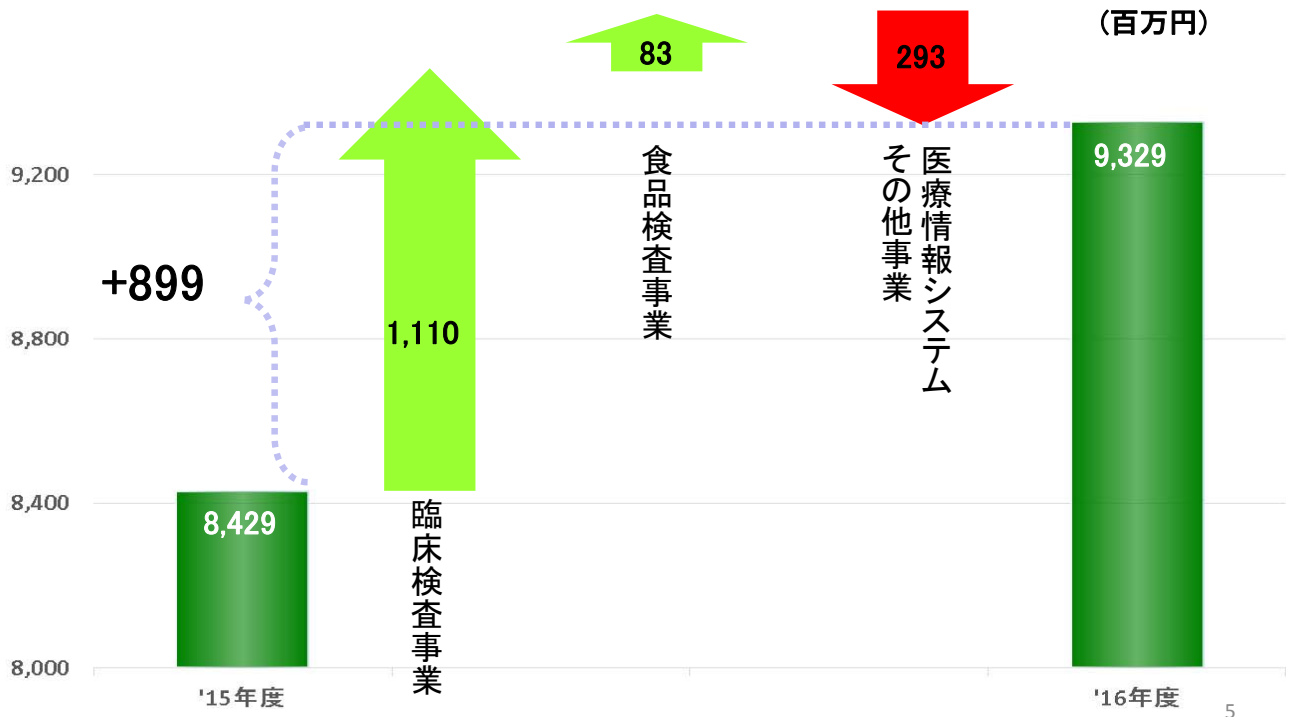
売上高 前期比 22億19百万円(2.0%)増収



4

## 事業別利益増減の内訳

営業利益 前期比 8億99百万円(10.7%)増益

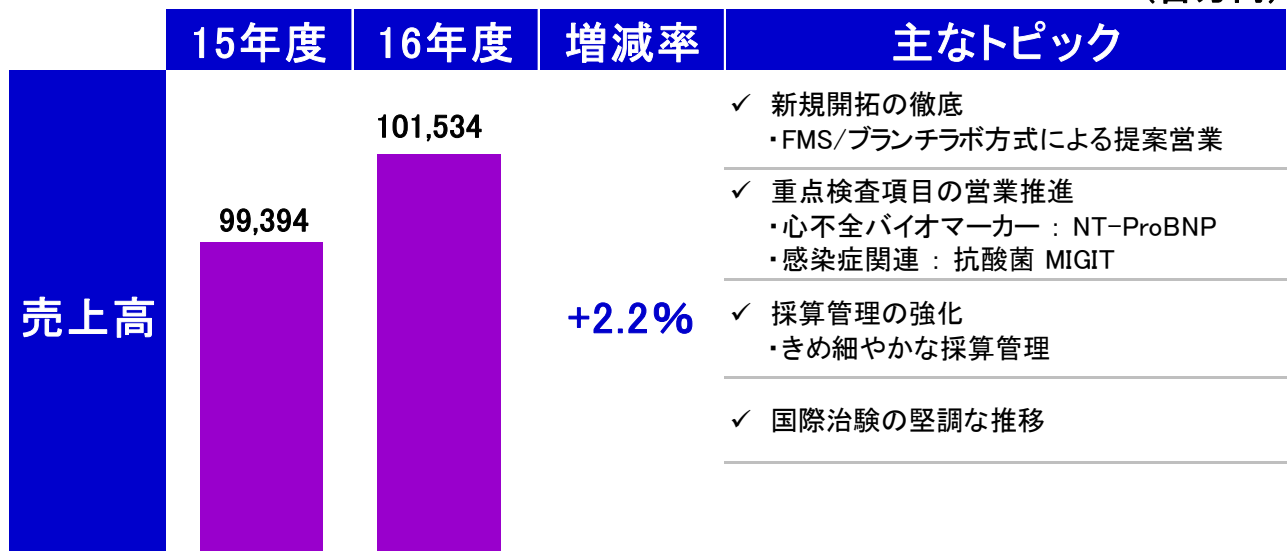


5

## 臨床検査事業の概要

売上高 1,015億34百万円  
前期比 21億40百万円(2.2%)増収

(百万円)



6



## 臨床検査事業の概要

### 研究開発活動

#### ✓ 2016年度に受託を開始した主な検査項目

- ◇多発性骨髄腫の微小残存病変の検索  
→日本骨髄腫学会主導の臨床研究に参加  
**業界初 8カラーフローサイトメトリー法**  
で受託を開始
- ◇PD-L1の22C3と28-8の免疫組織化学染色検査  
→新たながん治療薬(免疫チェックポイント阻害剤)の治療効果を予測
- ◇家族性高コレステロール血症の遺伝子変異検査  
→次世代シーケンサーによって複数の原因遺伝子を網羅的に解析

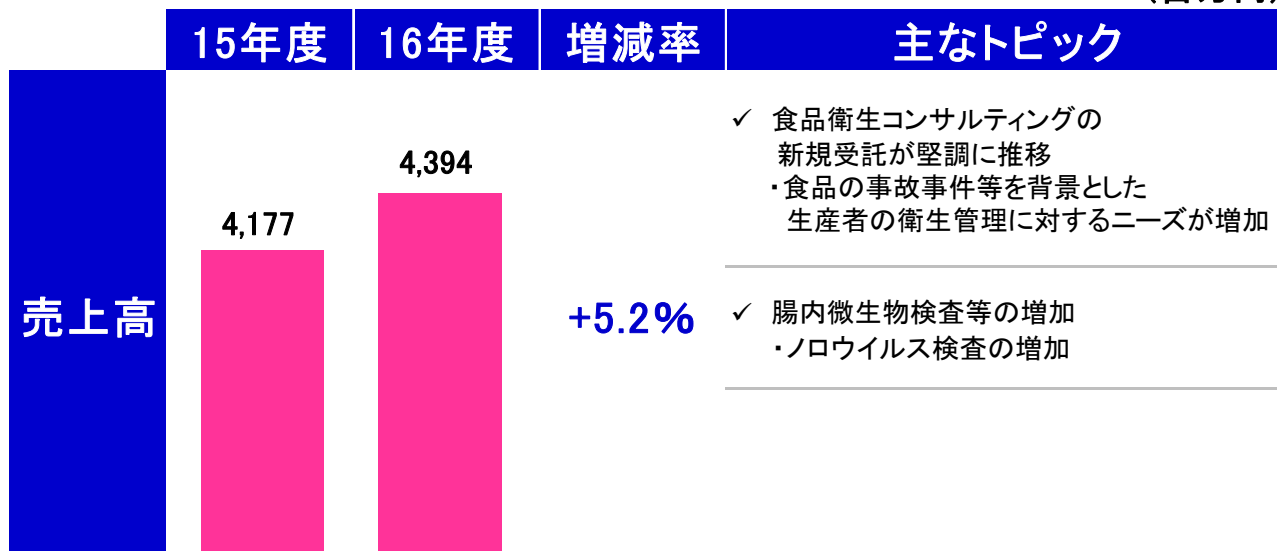
7



## 食品検査事業等の概要

売上高 43億94百万円  
前期比 2億17百万円(5.2%)増収

(百万円)



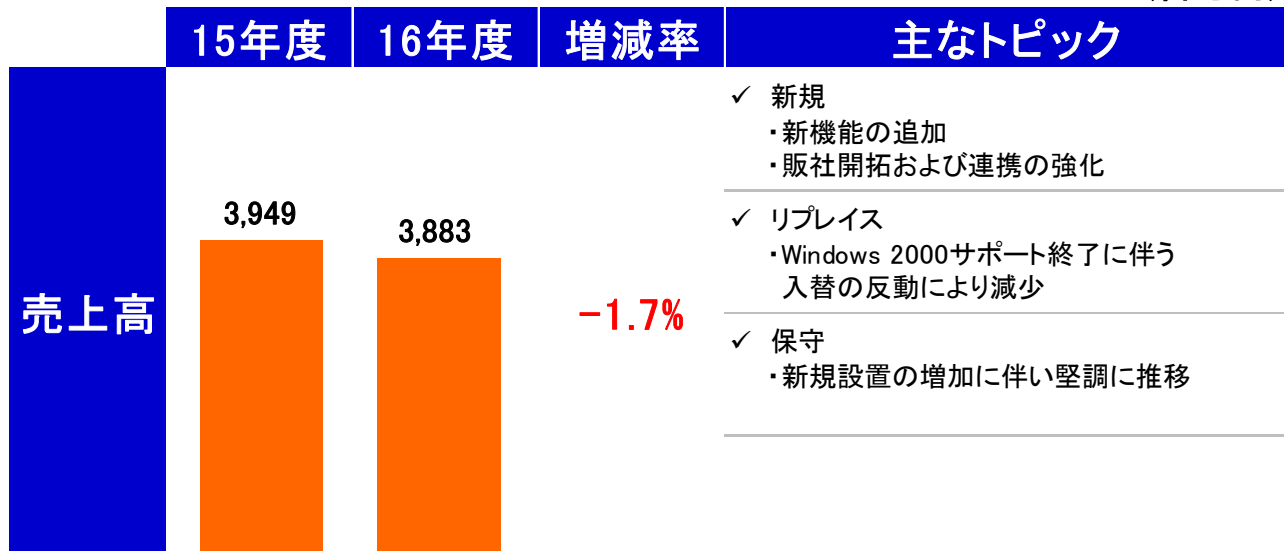
8



## 医療情報システム(電子カルテ)の概要

売上高 38億83百万円  
前期比 -66百万円(1.7%)減収

(百万円)



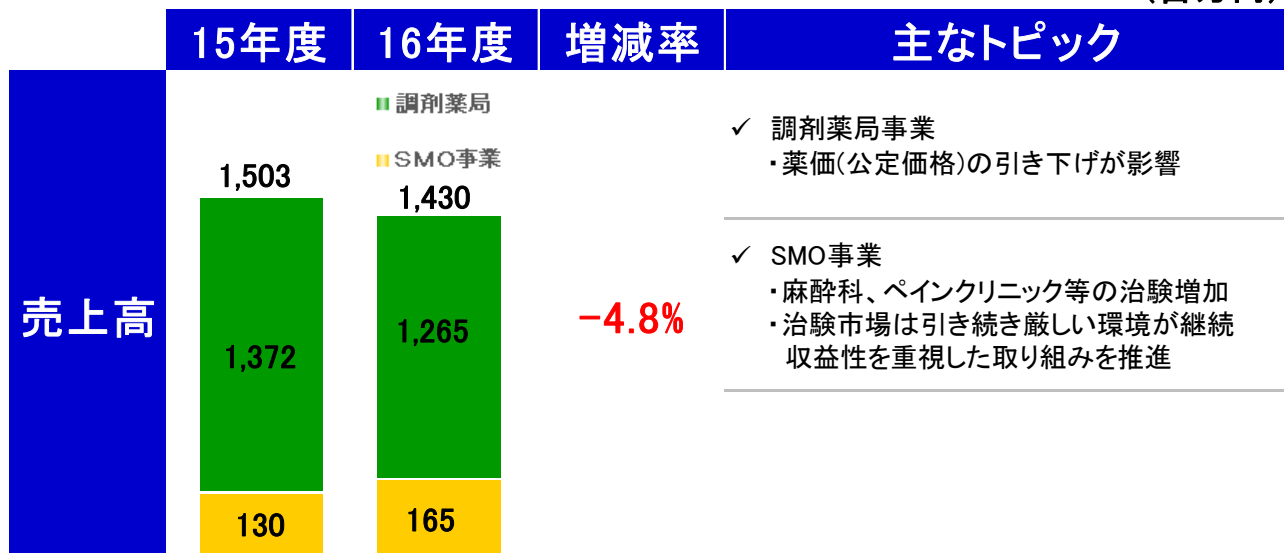
9



## その他事業の概要

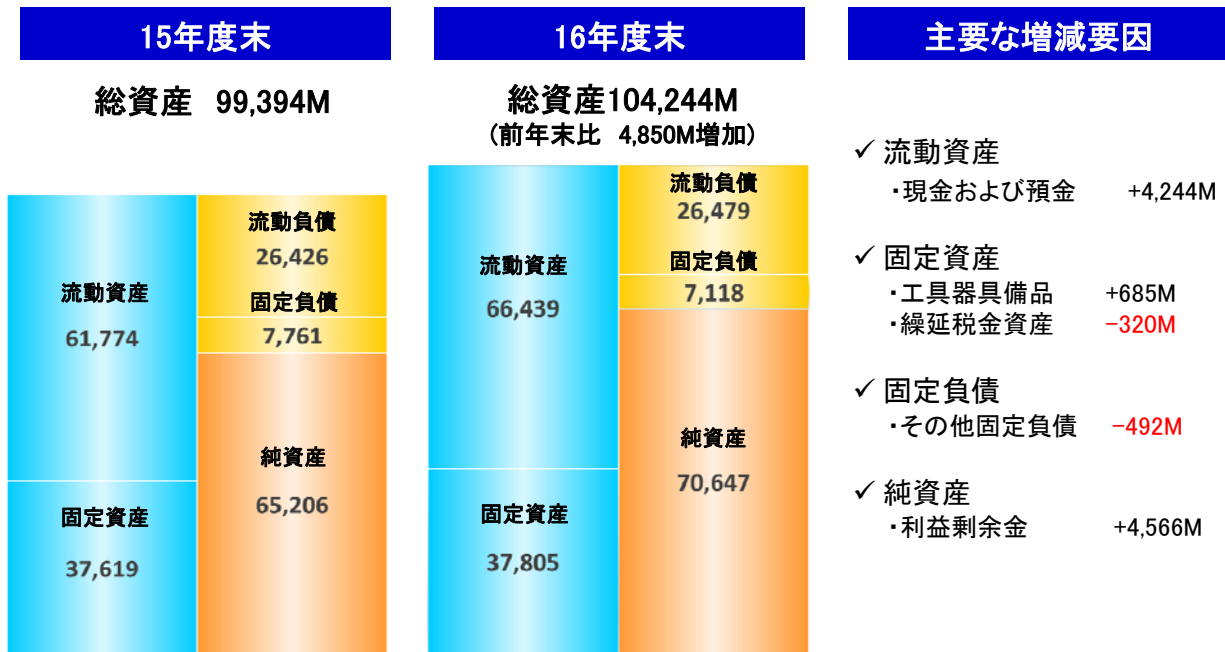
売上高 14億30百万円  
前期比 -72百万円(4.8%)減収

(百万円)



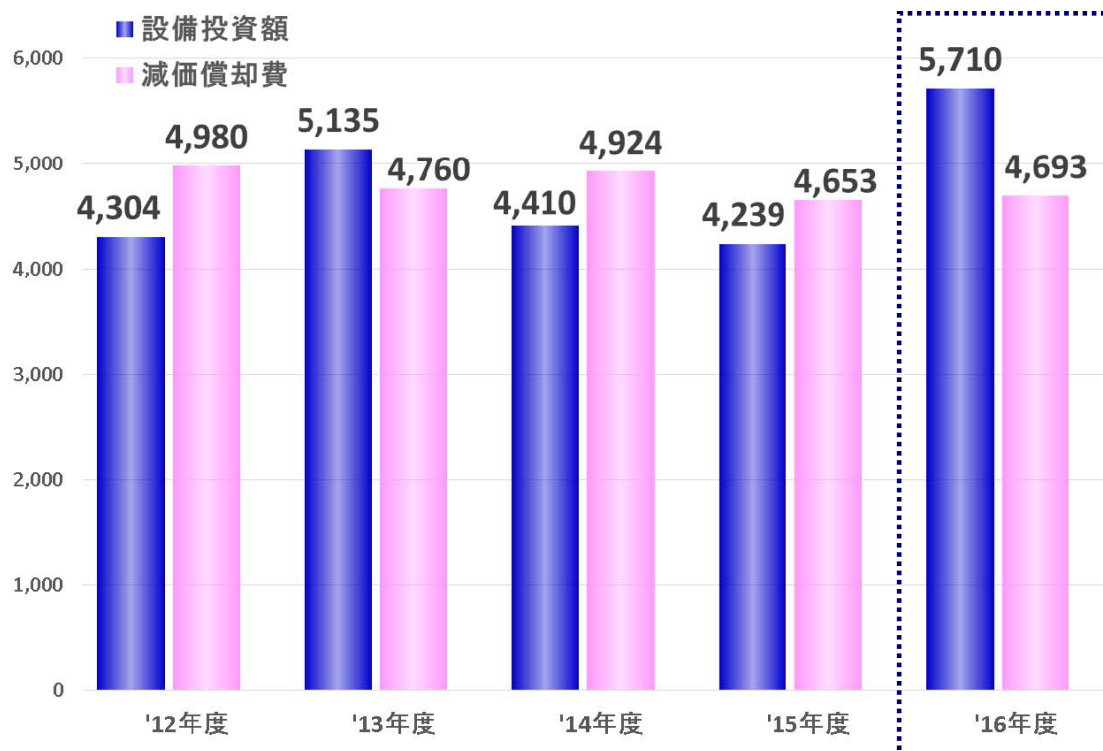
10

## 連結貸借対照表の概要



11

## 設備投資／減価償却費の概要



12

## キャッシュフローの概要

	2015年度	2016年度	(百万円) 増減
<b>営業活動によるキャッシュフロー</b>	<b>11,978</b>	<b>11,307</b>	<b>-671</b>
税金等調整前当期純利益	8,808	9,514	705
減価償却費	4,777	4,845	67
のれん償却額	986	315	-671
法人税等の支払額	-2,083	-3,450	-1,366
その他	-510	82	592
<b>投資活動によるキャッシュフロー</b>	<b>-3,234</b>	<b>-5,239</b>	<b>-2,004</b>
定期預金の預入による支出	-2,367	-5,432	-3,065
定期預金の払戻しによる収入	2,218	4,384	2,166
有形固定資産の取得による支出	-1,982	-3,122	-1,139
無形固定資産の取得による支出	-879	-1,111	-231
その他	-224	41	265
<b>財務活動によるキャッシュフロー</b>	<b>-2,916</b>	<b>-2,856</b>	<b>60</b>
リース債務の返済による支出	-1,438	-1,361	77
配当金の支払額	-1,380	-1,380	0
その他	-97	-114	-16
現金及び現金同等物の期首残高	29,061	34,910	5,848
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	22	0	-22
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>34,910</b>	<b>38,122</b>	<b>3,211</b>

13

## 2017年度の事業計画

14

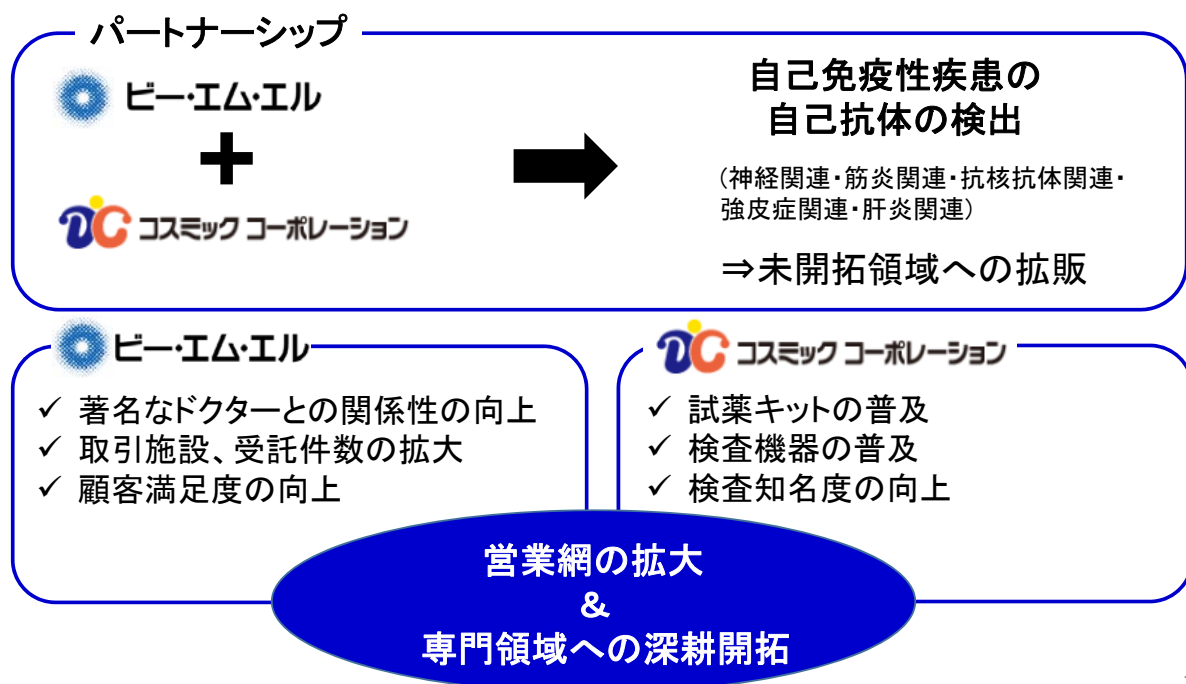
### <業績拡大のための施策>

#### 臨床検査事業

- ✓ 新規獲得の強化
  - ◇ ターゲット施設の明確化
- ✓ ラボ活用戦略
  - ◇ 全国78カ所のラボ、30ヶ所の分離ラボを活用
  - ◇ 検査数値の安定性、精度の向上
- ✓ 重点検査項目の拡販
  - ◇ アレルギー・心疾患・感染症など
  - 11項目を重点項目と位置づけ拡販
- ✓ パートナーシップ
  - ◇ 株式会社 コスミックコーポレーションの受託検査を継承
- ✓ 新規検査項目の受託
  - ◇ 味の素 株式会社 アミノインデックス (AICS) 検査の新規受託

### <業績拡大のための施策>

#### 臨床検査事業





### <業績拡大のための施策>

#### 臨床検査事業

アミノインデックス®がんリスクスクリーニング (AICS®) 検査



血液検査によるがんの  
リスクスクリーニング検査

男性：胃がん、肺がん、大腸がん  
膵臓がん、前立腺がん  
女性：胃がん、肺がん、大腸がん  
膵臓がん、乳がん  
子宮がんまたは卵巣がん

- ✓ 日本国内で、味の素㈱と直接契約している受託検査センターは当社を含めて2社のみ
- ✓ 当社：販売活動、検査 味の素㈱：解析、商品開発
- ✓ 健診や人間ドックなどのオプション検査として拡販

### <業績拡大のための施策>

#### 食品検査事業

- ✓ 検査の効率化を推進
  - ◇ 腸内細菌検査で遺伝子検査法によるスクリーニングの推進
- ✓ 食品衛生コンサルティングの拡販
  - ◇ 東京オリンピックの開催等を控え、食の国際基準「HACCP」の義務化 (2018年～)

#### 医療情報システム

- ✓ 販売網の拡充と新規開業情報収集の強化
  - ◇ 販社との連携

## 2017年度の事業計画

### <品質・サービス向上のための施策>

#### 中期経営計画達成へ向けて

- ✓ 非正規従業員の定着化推進
  - ◇ 非正規従業員規定 : 等級制度の導入 (正社員登用基準の明確化)
  - : 賃金制度の見直し
  - : 教育制度の導入
  
- ✓ 検査品質の追及
  - ◇ 検査機器への戦略的投資 : 次世代免疫装置の導入
  - : 自動検査支援装置の追加導入
  - ◇ 品質向上の為の人員確保
  
- ✓ 営業戦略上の投資
  - ◇ 3大都市圏のひとつの名古屋地区でラボの移転・拡張
  
- ✓ 社内環境の整備
  - ◇ 職場改善 : 働きやすい職場環境づくり

19

## 2017年度 通期の見通し

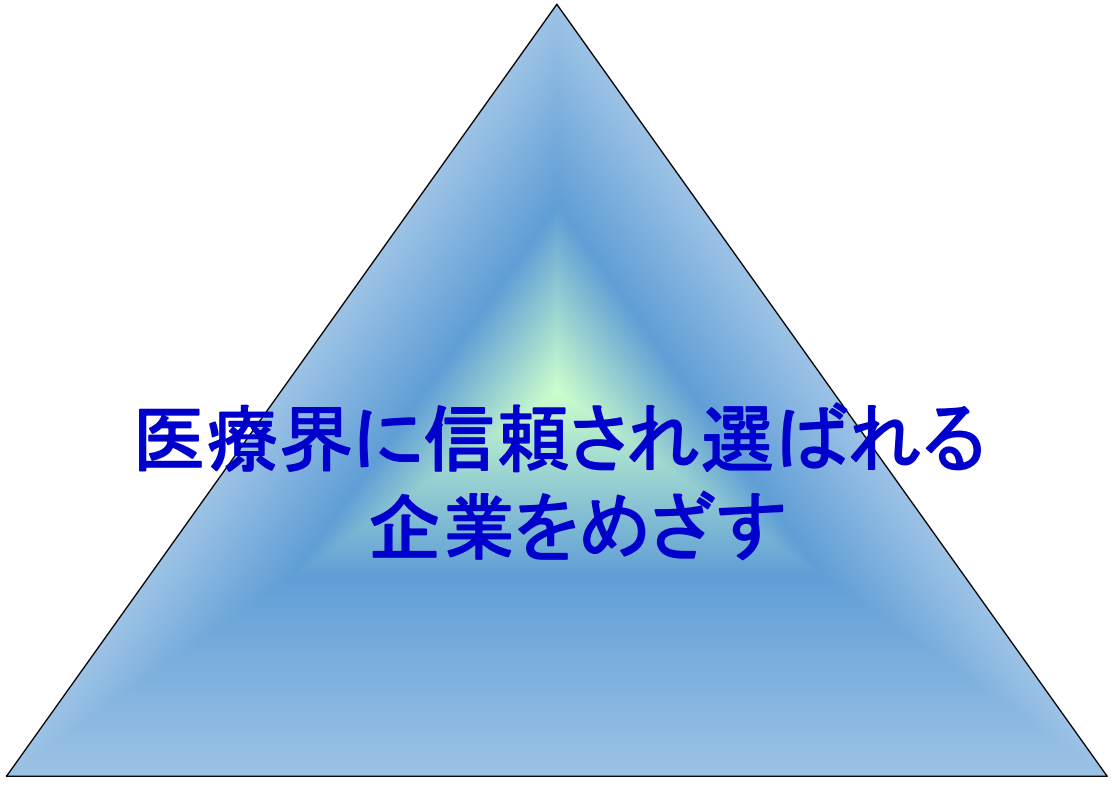
	2016年度	2017年度	(百万円)	
			増減額	増減率
売上高	111,243	114,000	2,757	2.5%
検査事業	105,929	108,550	2,621	2.5%
臨床検査	101,534	104,050	2,516	2.5%
その他検査	4,394	4,500	106	2.4%
医療情報システム	3,883	3,975	92	2.4%
その他事業	1,430	1,475	45	3.1%
営業利益	9,329	9,400	71	0.8%
経常利益	9,711	9,750	39	0.4%
親会社株主に帰属 する当期純利益	5,948	5,960	12	0.2%

20

### 公益財団法人 「ビー・エム・エル医療教育基金」

- ✓ 2016年10月に公益財団法人の認定
- ✓ 2016年度 応募者数56名の中から  
奨学生14名を決定  
(2015年度の奨学生を含め計31名)
- ✓ 給付型奨学金

21



医療界に信頼され選ばれる  
企業をめざす

22

### ＜将来に関する記述等についてのご注意＞

本資料に記載されている将来に関する見通し、戦略、計画に関する記述等は、当社が現在入手している情報に基づく本資料作成時点での種々の前提に基づいた当社の判断であります。従ってこれらの記述・前提は、その内容の正確性を保証したり、将来の計画数値、施策の実現を確約したりするものではありません。今後、様々な要因によって記載の見通しと異なる結果を生じえるリスクを含んでいます。また、今後予告なしに変更されることがあることをご了承下さい。